



図書たより

NO. 20

Jan 2017

明治大学中野図書館

図書館員オススメの本

【大崎茂芳著『クモの糸でバイオリン』岩波書店、2016(岩波科学ライブラリー：254)】



著者は、40年もの長い間クモの糸の性質を調べてきた。専門は、生体高分子学というもののだが、若いころ粘着紙の研究をしていた時にクモに興味を持った。クモの糸の研究はそれまでほとんど他にされておらず、著者はこの未知の領域に興味としてはまりこんでいった。まず、驚くべきは年間暇かけての生きたクモからの糸の取出しである。そんなことをする人がいるなんて、それが著者である。そして小説『蜘蛛の糸』ではないが、人間がぶら下がれないか挑戦する。最初の内はもちろんそんなことはできなかったが、工夫を重ね、19万本という途方もない糸を使って、ハンモックに自分がのってぶら下がることができたのだ。そういった企画でテレビにも出ていたらしい。10年ほど前からは、バイオリンの弦をクモの糸で作れないかに挑戦し始めた。その結果は、この本を読んでみて確認してほしい。好きなことに打ち込む、豊かな人生とはそれにつぎるのではないかと考えさせられた。

【西ジェームス著『英語で学べば英語はできる：“和訳で遠回りしない”英語習得の絶対ルール！

：自然な英語を無理なく覚える 37 の教材と 14 の STEP』国際語学社、2012】



英語を読んだり、聞いたりした瞬間に和訳していかないだろうか？

和訳するということは英語を「日本語脳」で考えているということ。また反対に日本語を英訳する時、英文表現の蓄積が不十分なままだと不自然な文章になりがちだ。いわゆる和製英語になってしまう。

英語は英語のまま理解し、英語で思考できる「英語脳」を創り出すことが英語上達には必要だという。また、「頭を使うのではなく、練習して身に着ける実技科目」であるというのも面白い。

本書では総合的な学習内容と14段階のレベル別メニューが計画的に組まれているので、レベルをクリアした時の達成感を持って次のレベルへ進める。それぞれに対応したレベルをクリアすれば自然とTOEIC点数も上がってくるというのだ。英語リーダーのリーディングをトレーニングに組み込んでいるので、図書館の蔵書も大いに活用してもらいたい。

【大崎善生著『聖の青春』KADOKAWA、2015。(角川文庫：お49-9)】



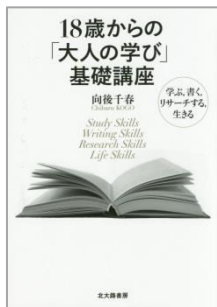
2016年秋に公開された映画「聖の青春」をご覧になった方はいるだろうか。本書は映画の原作で、「東の羽生、西の村山」と並び期待された棋士・村山聖の生涯を追ったノンフィクションである。村山は5歳の時、腎臓の難病「ネフローゼ症候群」を患う。以来、入院や手術を繰り返しながらも将棋を指し続け、凄まじい強さで最高クラスであるA級まで上りつめる。「名人になりたい、自分の寿命が尽きる前に」という思いからくる勝利への執念、命を削る将棋人生には言葉もない。がむしゃらに生きる村山と支える周囲の優しさ、勝負の厳しさ、ノンフィクションだからこそその迫力と熱気に読む手が止まらなくなるだろう。

【近藤忠彦著『フランス人と日本人：足して割ったぐらいがちょうどいい』創英社，2015】



在仏45年の経験があるNHKラジオ深夜便のレポーターでもあった著者が、日本人の知らないフランスらしさとは何かを著した一冊だ。内容は、文化・教育・政治・日仏の文化交流と幅広い。フランスに住んだ経験のある私には“あるあるネタ”満載の満足のある内容だった。最近話題になった「フランス人は10着しか服を持たない」という本に対して実際は10着もないという指摘に、思い出す人が何人もいる。日本人が思っているよりパリやパリジェンヌは地味で流行に左右されないこと、ホスピタリティーに欠けているように思えるが実際は何か帳尻を合わせていること、フランス人は遊ぶために働くと言われており「残業」という言葉自体がないこと等々。8月は医者もバカンスでいないので急病になったときは大変だった。働き過ぎの日本人とは違うフランス人（外国）を知ることにより、日本の長所と短所の両方を改めて自覚できる。日本の少子化対策のヒント、語学学習や留学に関してもうなづかされることが書かれており、比較文化論を学ぶ人、海外留学を考えている人にもお勧めしたい一冊だ。

【向後千春著『18歳からの「大人の学び」基礎講座：学ぶ、書く、リサーチする、生きる』KADOKAWA，2016】



本書は、大学で学ぶべき「学ぶ」「書く」「リサーチする」「生きる」の4つのスキルを身につけることを目標としている。具体的には、「学ぶ」「書く」については、自分に合ったノートの取り方を見つけること、自分が知らないことを読む「ペータ読み」の習慣をつけること、本を読むときは、①文献情報、②本の内容を一言でまとめたもの、③引用したい文章のメモを作っておくことなどが重要だという。本書の優れた点は、要点がよくまとまっており、かつ、大切なことについては詳細に説明されていることだ。たとえば、レポートの構成は、「序論・本論・結論」でそれぞれ何文字を目安に書けばよいか、さらに、序論は、状況(Situation)、焦点化(Complication)、問いと主張(Question+Answer)で構成されるというところまで詳細に説明されているため、レポートに慣れていない人でも文章単位でどのように書き進めればよいのかわかる。各章末には「自己鍛錬」という練習問題がついており、本書の内容を実践しスキルを身に付けるのに有効だ。これらのスキルは、一度身に付ければ一生ものだ。ぜひ学生である今から実践し、これからの人生に役立ててほしい。



春季長期貸出のお知らせ

対象者：学部生・院生（卒業・大学院修了予定者を除く）

☆ 貸出開始日 1月 26日（木）

☆ 返却期限日 4月 11日（火）

（ローライブラリーの貸出期間は、通常通り1週間です）



開館日程変更のお知らせ

2月26日（日）開館します（10時～17時開館）

3月19日（日）防災設備点検のため臨時休館します

